ローカルAI（HP ZGX Fury）が革新する知財業務と機密保持



HP ZGX Fury G1n
（NVIDIA GB300搭載）

HP ZGX Fury G1n等のローカルAI基盤の登場により、出願前の未公開発明や係争資料を社外に出さずに数千億パラメータ級のLLMを運用可能になりました。従来のクラウドAI利用に伴う情報漏洩や法的リスクを排除し、安全で効率的な知財業務プロセスを実現します。

ローカルAIが解決する知財法務の3大リスク



弁理士の守秘義務・営業秘密の確実な保護

外部関係者へのデータ提供が発生しないため、守秘義務違反や営業秘密の秘密管理性喪失リスクを論理的に解消。



未公開発明の新規性喪失リスクを回避

第三者プラットフォームへ情報を送信しないため、意図しない情報の公開化や新規性喪失の危険を防止。



748GBメモリ・20PFLOPSで大規模モデルを完結処理

280億パラメータ級のオープンモデルを、社内ネットワーク閉域内で高速に運用可能。

データ機密度に応じたAI実行環境の使い分け指針

機密データ（Sランク）



出願前発明　係争・交渉資料　未公開案件

極秘データ（Sランク）は「ローカル推論」に限定

出願前発明や係争資料など、漏洩が壊滅的となるデータはオンプレミス環境でのみ処理。



一般・公開データ（A〜Cランク）



出願済み特許　公開公報分析　教育資料　公知文献

一般・公開データ（A〜Cランク）は柔軟にクラウド併用

過去の検討メモや公開公報分析は、契約統制（非学習設定）のうえクラウド利用も容認。



知財業務におけるデータ機密度（S〜Cランク）と推奨実行環境・統制要件の整理

区分（機密度）	該当データの例	推奨実行環境	必須の前制事項
S（極秘）	出願前発明、係争・交渉資料、未公開案件	ローカル推論のみ（DGX Station系等）	アクセス制限、ログ保存、持ち出し管理、顧客合意
A（社外秘）	社内技術文書、出願済み検討メモ	ローカル優先（非学習クラウドも可）	契約条項確認（保持・学習なし）、マスキング
B/C（社内限・公開）	公開公報分析、教育資料、公知文献	クラウド利用可 / 任意	ハルシネーション検証、結論の機密化防止

Gemini Notebook